

台風被害復旧に全力

公明議員 農業、住宅の再建支援の連携で

青森、群馬県

台風18号による記録的な大雨や突風の被害から一夜明けた17日、各地で住民が水に漬かった建物の泥をかき出したり、散乱したがれきを片付けるなど、復旧作業に追われた。こうした中、公明党は同日も青森、群馬の両県本部の代表らが被災地に入り、現場の状況を調査するとともに、被害に遭った住民から復旧への要望などを聞いた。

公明党青森県本部の伊吹信一代表(県議)は同県板柳町と弘前市を訪れ、台風18号によるリンゴ園の被害状況を調査した。平山秀直(五所川原市議、小田桐慶二、外崎勝康の両弘前市議が同行した。板柳町では、会津宏樹さんのリンゴ園を視察。会津さんは「木が完全に泥水に漬かり、果実に泥が付いた。こうなったらリンゴは腐る

ので出荷できない」と話し、肩を落としていた。同行した同町経済課の田沢久志課長補佐は「甚大な被害が発生した2002年の水害を超える損失が予想される」と語っていた。次いで伊吹代表らは、弘前市に赴き、生産者の吹田武幸さんから話を聞いた。吹田さんは「水路が氾濫し、園地が今も水浸しになっている。このままではリンゴ樹の根が腐ってしまう」と窮状を訴えた。伊吹代表は「被害の全容把握を急ぐとともに、国、県、市・町の連携で早急な復旧作業に取り組む」と述べた。一方、群馬県みどり市で発生した突風による建物などの被害を受け、党群馬県本部の福重浩代表(県議)、水野俊雄、葉丸潔の両県議、高草木良江、宮崎武の両市議は現地を訪れ、関係者を見舞い、被害状況を調べた。突風は16日午前2時10分ごろに発生。民家の屋根瓦などを吹き飛ばしながら一瞬のうちに通り過ぎた。この突風で「屋根瓦被害が98件、ビニールハウスな

視察を終えた福重代表は、「公明議員が連携し、復旧支援に全力を挙げる」と強調した。



大雨で水に漬かったリンゴ園(右奥)で生産者から話を聞く伊吹代表(中央)ら17日 青森・板柳町



サッカーゴールや木がなぎ倒された市等懸運動場を調査する福重代表(右から2人目)ら17日 群馬・みどり市